

土木建設業界の現状と将来展望

―土木建設技術者の人員は不足していないのか

松田七男 建設業協会 土木技術者については、災害復旧対応を行っている一部地域の建設企業は、急に復旧工事の発注が行われ、1社当たりの請負工事量も多くなっていること、更に工事額が小さくて個所が分散しているため、人員は不足気味であると聞いている。

しかし、県内全般的には10年前の工事発注量から比べるとまだまだ少なく、土木技術者はほぼ足りている状況で、工期に影響するほど不足していないと思う。

なお、若年土木技術者層の不足については、現状の工事発注では実績ある技術者が求

められているので高齢者や定年後の再雇用で対応している。

将来的には、土木技術者の高齢化が進んで必ず不足の状況になると考えている。

―鉄骨や生コンなど資材の納入価格は、何割ほど上昇しているのか

松田 鉄骨材については、値上がりしていると聞いているが、最近の実勢価格を詳細に把握はしていない。

生コンの価格については、県内では各地域により、また生コン業者により価格が一定していない。特に、福井坂井地区は、これまで低価格であったが、昨年頃から急激に値上がりしている。これによりコンクリート二次製品が値上

建設業界のトップ

松田七男



福井県建設業協会会長 松田七男氏

建設業界が久々の熱気に沸いている。アベノミクスによる公共事業の復調に続き、2020年の東京五輪開催や2027年開業を目指すリニア中央新幹線の建設など、追い風が続く。その一方で、賃金や資材費の高騰が業界の懸念材料となっている。また、就業者の高齢化や新規卒者の建設業への入職者数の減少が著しいなど人材不足や産業活力の低下も課題となっている。本県も北陸新幹線整備や足羽川ダム工事など大型公共工事が着工する中、土木建設業界の現状と今後の展望を松田七男建設業協会会長に聞く。